



謎の超笑力をもつ大魔王が、あなたに贈る不思議なムダ話

発行：トラベル・ミトラ・ジャパン (E-mail : daimao@travelmitra.jp)

ぼん子画

(570-0041) 大阪市北区天神橋 1-18-25 第3 マツイ・ビル 201 TEL : 06-6354-3011

お笑いエッセイのメール発信をご希望の方は、ご連絡下さい。(E-mail : daimao@travelmitra.jp)

「お陰さまカルマ⑦」

カルマ論には、次の三つの作用があると考えられる。

- ①庶民のリクリエーション。
- ②宿業。過去世の行為が強調され差別につながる。

③未来の道徳性への誘導。本来の目的。

カルマ論つまり「因縁」論はポンコツの理論なのか。原因があるから、結果(縁)がある。結果があるということは、原因がある。インド哲学の基本である。前述したように、ブッダは苦しみから解放される方法を説いた。この世界を苦しみであると分析し、その原因は執着だとした。その執着を滅すれば苦から解放される。

わが輩がそれをポンコツ理論だとするならば、ブッダを愚弄したことになる。そうならば、わが輩は間違いなく地獄に墮ちることになるだろう。墮ちたくないのだから、次の本をとりあげ、もう少し検討してみたい。

『『苦』をつくらない』曾我逸郎著 (高文研)

曾我さんとの最初の出会いは1978年8月である。当時わが家は、インド好きのたまり場であった。わが母は人が集まると喜び、妹が料理を賄った。飲み食いはすべてフリーであった。曾我さんは京大で哲学を専攻していたので、わが輩が誘った。インド人教授とその教え子Iさんも来ていた。

曾我さんは電通に就職し、名古屋に転勤になった。ながらく年賀状のやり取りはあったが、それも途絶えた。曾我さんがどのような人生を歩んだか、わが輩は全く知らなかった。

2017年にわが輩は初めてオーストラリアに渡航した。その際に世話になったのがIさんである。昔話で盛り上がったが、そのときに見せてもらった一枚の写真に曾我さんが写っていた。

帰国後に、インターネットで検索してみると曾我さんの記事が載っていた。懐かしく連絡したことがご縁になり、2018年に一緒にインドに行くことになった。

曾我さんの著書を紹介する前に、一言。この本はお坊さんや仏教学者のものではない。ブッダの理論に「実社会」が裏打ちされている。

「ブッダ(釈尊)は、人が苦をつくり、自分と人を苦しめ、互いに苦しめ合っているのを見

て、苦をつくらなくなる方法を教えてくださいました」

権力者は、庶民よりもはるかに苦をつくりだしている。権力者こそブッダの教えを学べと曾我さんは言う。

曾我さんの著書はユニークだが、彼の人生はそれにも増してユニークである。電通の部長を早期退職。その理由のひとつは原発アピールの仕事を拒んだことと言われている。

(もし、そうなら勇気のいることだ。彼の哲学のなせる業である)

長野県中川村に移住、推挙されて村長になった。「全村挙げてT P Pに反対」、辺野古でも反対運動に参加している。

学生時代はもの静かな青年であったが、過激な人になったのだろうか。

「誰もが凡夫であると理解し、赦し合うこと・・・よき縁に触れてもらい、よき業を積んでもらい、反応パターンを苦つからないものに変えていってもらいましょう・・・批判は攻撃ではなく、ありがたいアドバイスなのです」

これを読む限り立派なおじさんのように思える。

なぜ赦し合うのか。お互い様だからである。だが権力者はそうは思わない。オレが社会を差別していると傲慢に思う。権力者だけではない。凡夫もそう思う。今「私」がここに在るのは皆さまのご縁のお蔭である。これを「此縁性」という。「此(これ)が有れば彼(かれ)が有り、此(これ)が無ければ彼(かれ)が無い。此(これ)が生ずれば彼(かれ)が生じ、此(これ)が減すれば彼(かれ)が減す」

原因(此)があれば結果(彼)がある。そこに苦しみがあれば、その原因を探り出してなくせばよい。

皆さまのお蔭、お互い様、だと分かればカルマ論はポンコツではない。そこで、中心に結び目をつくった麻のロープを想像していただきたい。結び目は「現在」、その左は「過去」、右は「未来」だと想っていただきたい。ロープは無数の麻糸で成り立っている。今ここに苦しみがあるとすれば、その原因を無数の過去から探しだすことは容易ではない。だが、ブッダはその根本原因を無明による執着だとした。われらはブッダのように苦行や深い思考ができるわけではなない。ただ、ただわれらが出来るのは「皆さまのお蔭で今日がございます」と知ることだけである。

再び言うならば、過去・現在・未来を一直線だと解釈すれば、カルマ論はポンコツになるおそれがある。そこから逃れる術がない。前述したように過去は無数の麻糸でできている。現在という結び目から、未来に向かうときも、再び無数の麻糸に分かれる。その中のどれを選ぶかは、われら自身に任されている。それが人間に与えられた「自由性」というものである。これこそがカルマ論の本来の目的である。

同じことをヒンドゥー教の出家者も言っているので、最後に記しておく。

<チダーナンダ大師のことば>

現在のみが、あなたと共にある。過去は過ぎ去ってしまった。未来の確実性はない。それ故、現在の瞬間、現在の人生を懸命に生きなさい。立ち上がり行動しなさい。他者への助力と信じることに満ち溢れた現在を生きない。